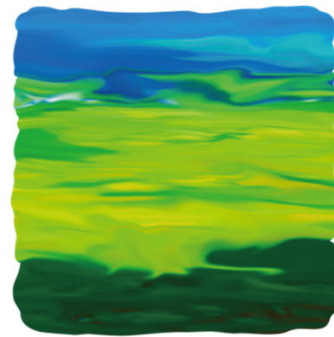


持てるすべてを「いのち」に向けて。

Dedicated to sustaining all life.

2020年度決算概要説明資料



NORINCHUKIN

農林中央金庫

2021年5月26日

2020年度決算の概要

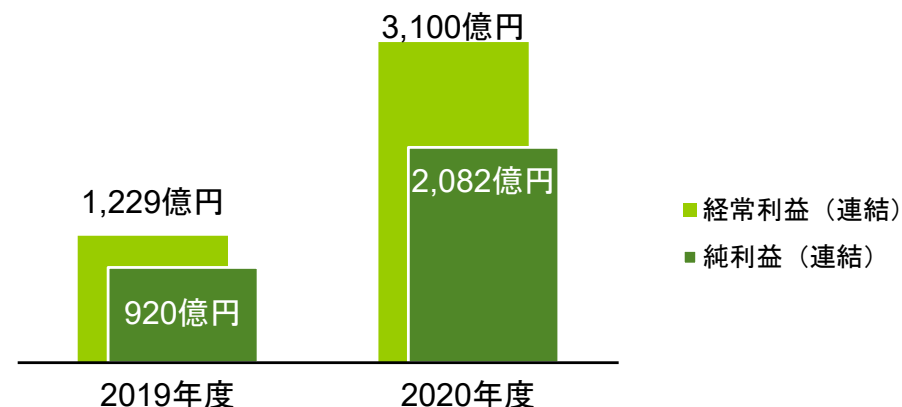
2020年度決算の総括

- 外貨調達費用の減少等もあり、安定的な収益を確保。自己資本比率は引き続き高水準

収益

【連結】 (単位: 億円)

	2019年度	2020年度	増減
経常利益	1,229	3,100	1,870
純利益	920	2,082	1,162

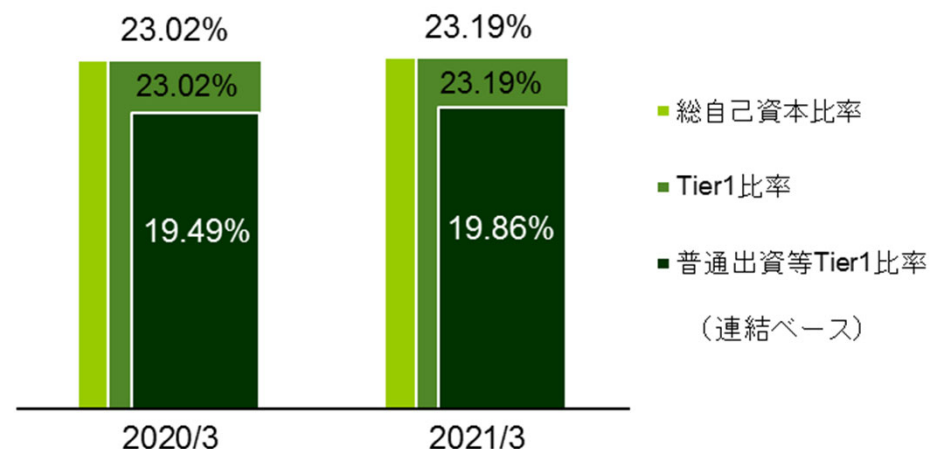


自己資本比率 (バーゼルⅢ国際統一基準)

<バーゼルⅢ基準>

【連結】

	2020/3	2021/3	増減
普通出資等Tier1比率	19.49%	19.86%	0.37%
Tier1比率	23.02%	23.19%	0.17%
総自己資本比率	23.02%	23.19%	0.17%



損益の状況

- 資金運用収益は減少も、外貨調達費用の減少を主因に資金調達費用も減少
- 与信関係費用は将来予測を踏まえた引当の枠組み導入等もあり増加

【連結】

(単位: 億円)

	2019年度	2020年度	増減
1 経常収益	15,445	13,588	▲ 1,856
2 うち資金運用収益	12,466	8,475	▲ 3,990
3 (有価証券利息配当金)	10,920	7,305	▲ 3,614
4 (貸出金利息)	1,263	974	▲ 289
5 経常費用	14,216	10,488	▲ 3,727
6 うち資金調達費用	11,551	6,310	▲ 5,241
7 (信連等調達費用)	3,364	3,134	▲ 230
8 うち事業管理費	1,533	1,511	▲ 22
9 経常利益	1,229	3,100	1,870
10 税引前純利益	1,239	2,936	1,696
11 親会社株主帰属純利益	920	2,082	1,162

【単体】

	2019年度	2020年度	増減
12 経常利益	1,165	3,096	1,930
13 純利益	894	2,120	1,226

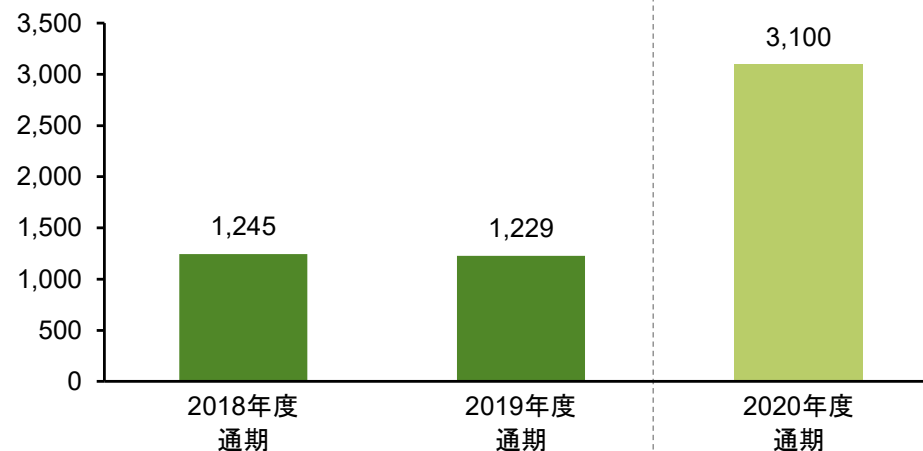
【参考値(単体)】

14 有価証券売却損益	679	▲ 465	▲ 1,145
15 与信関係費用(▲)(注)	24	831	807
16 有価証券償却(▲)	18	134	115

注: 与信関係費用のマイナス(▲)は戻入

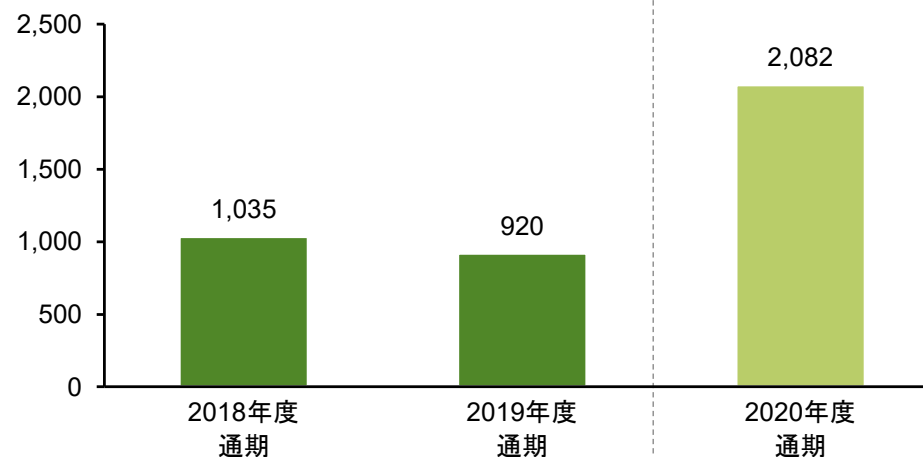
経常利益の推移 (連結)

(単位: 億円)



純利益の推移 (連結)

(単位: 億円)



バランスシートの状況

国内の貸出の伸長等により貸出金は増加。有価証券等は売却・償還等により減少

【連結】

(単位: 億円)

	2020年3月末	2021年3月末	増減
1 貸出金	200,588	221,025	20,437
2 有価証券	545,332	480,938	▲ 64,394
3 金銭の信託	59,966	106,385	46,419
4 現金預け金	195,050	200,669	5,619
5 その他	53,881	67,458	13,576
6 資産の部合計	1,054,820	1,076,478	21,657
7 預金等 ^(注)	664,316	665,299	982
8 農林債	7,844	3,554	▲ 4,289
9 売現先勘定	157,265	170,739	13,473
10 その他	152,776	157,329	4,552
11 負債の部合計	982,203	996,922	14,718
12 純資産の部合計	72,616	79,555	6,939

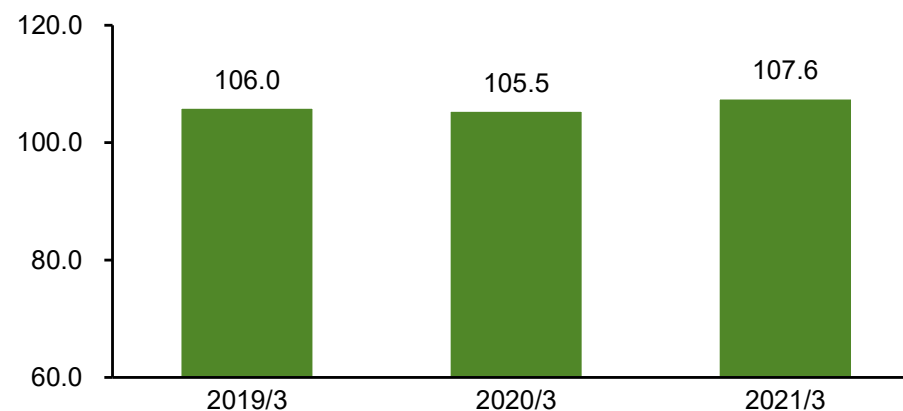
注: 預金等は会計上の預金および受託金(会員からの短期資金受入が大半)

【単体】

	2020年3月末	2021年3月末	増減
13 資産の部合計	1,034,035	1,052,381	18,345
14 負債の部合計	962,286	974,120	11,834
15 純資産の部合計	71,748	78,260	6,511
16 その他有価証券評価損益	23,471	26,839	3,367

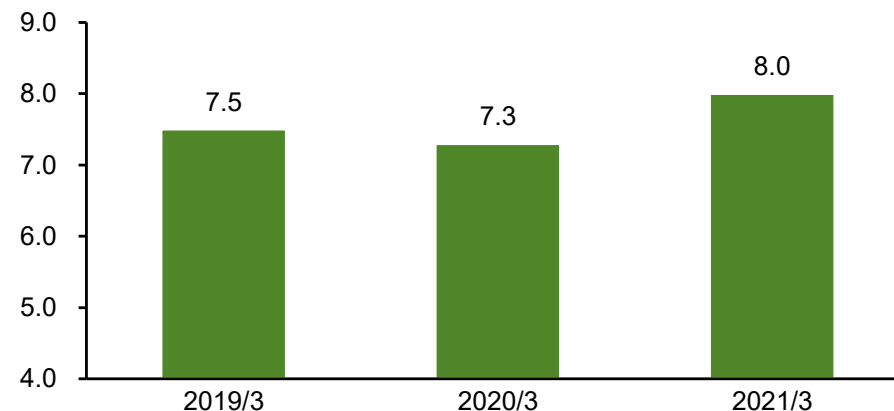
総資産の推移 (連結)

(単位: 兆円)



純資産の推移 (連結)

(単位: 兆円)

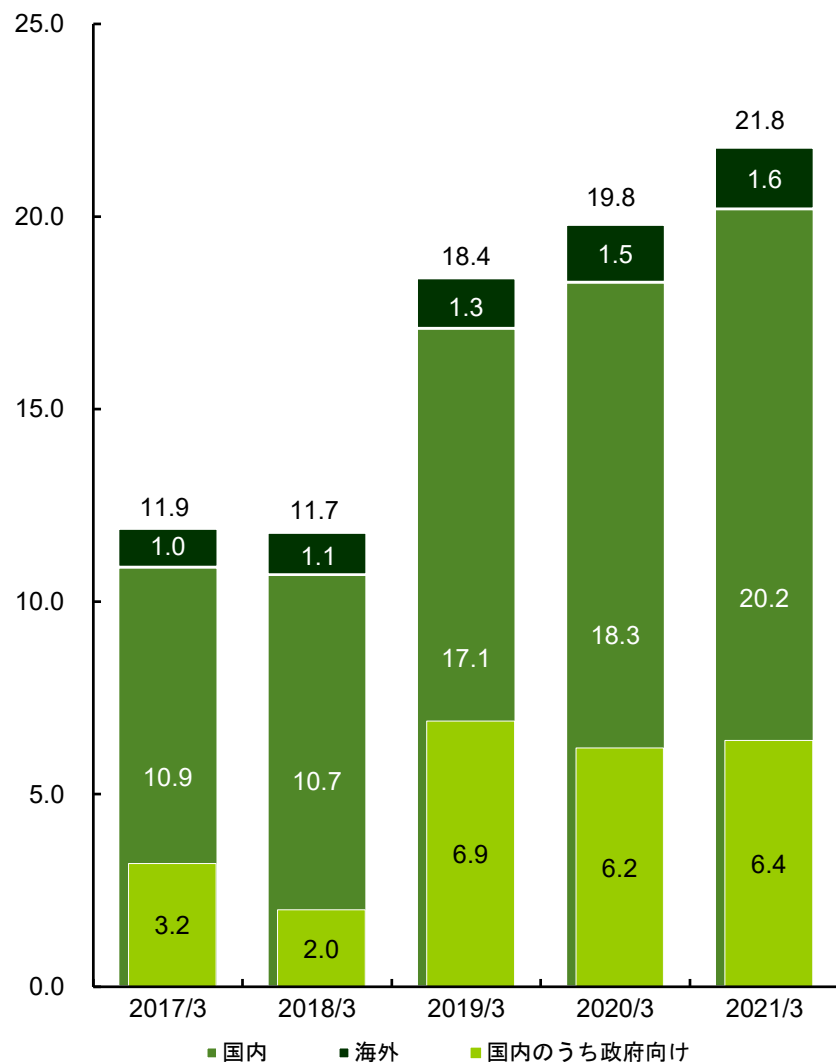


貸出金の状況（単体ベース）

国内の貸出等の伸長を受けて貸出金が増加

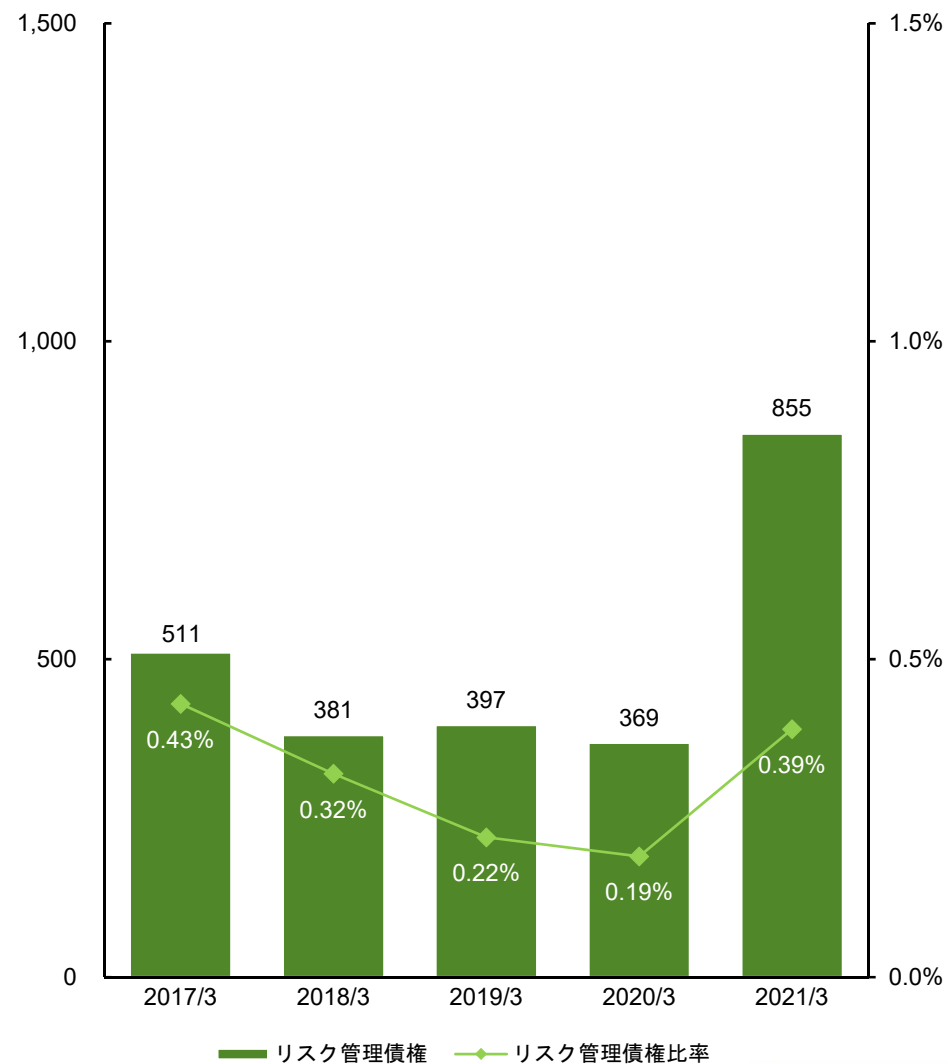
貸出金残高の推移

(単位：兆円)



リスク管理債権の推移

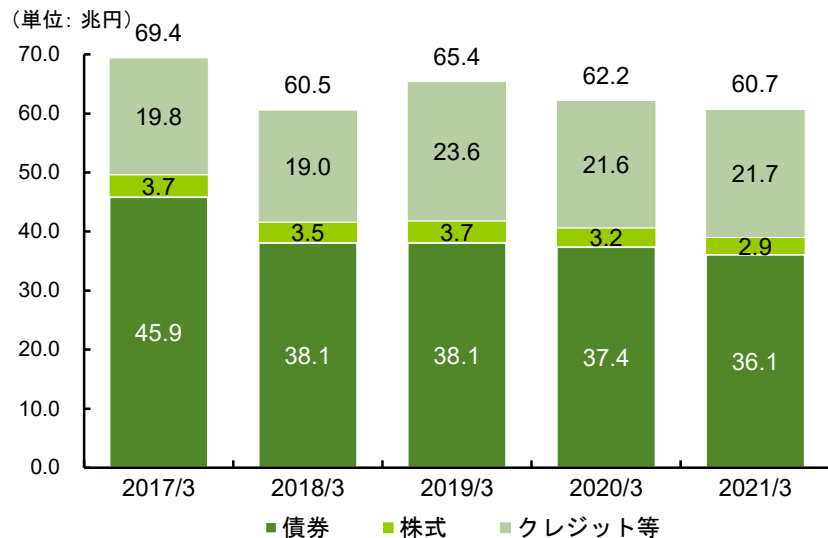
(単位：億円)



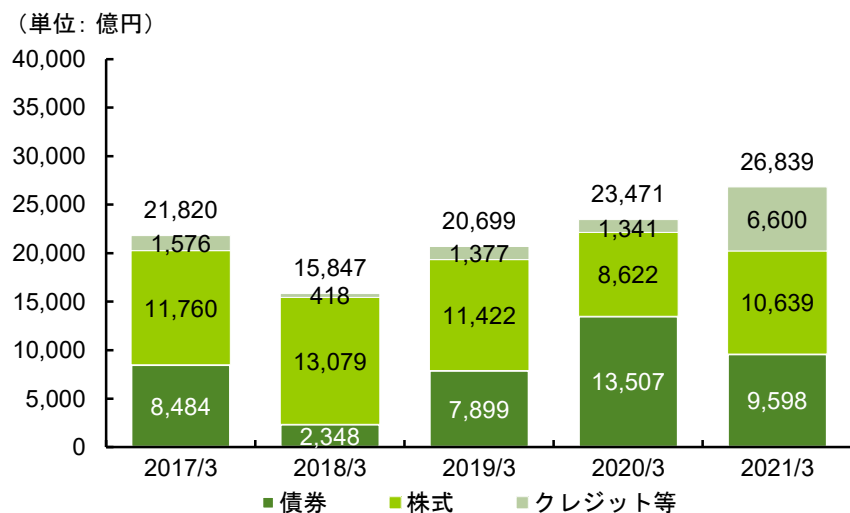
市場運用資産の状況（単体ベース）

- 有価証券評価益は2兆6,839億円。市場運用資産のうち約9割をA格以上の資産が占める

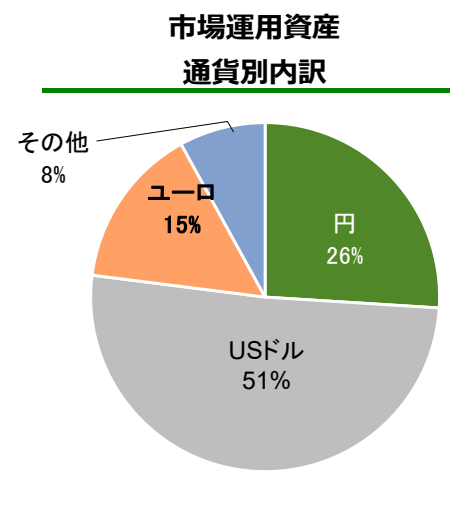
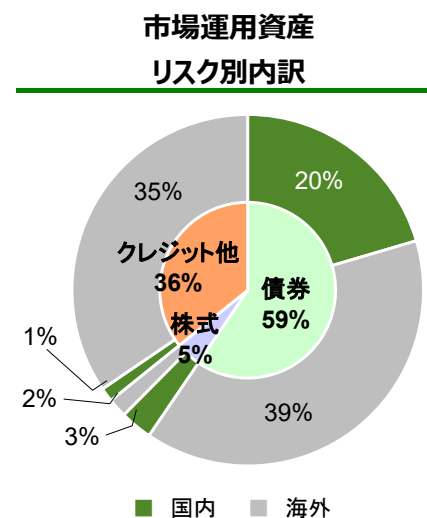
市場運用資産残高の推移



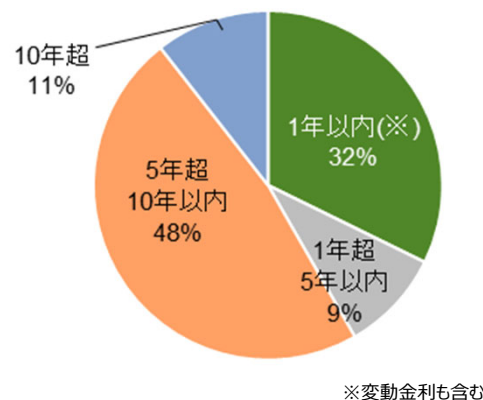
有価証券評価損益の推移



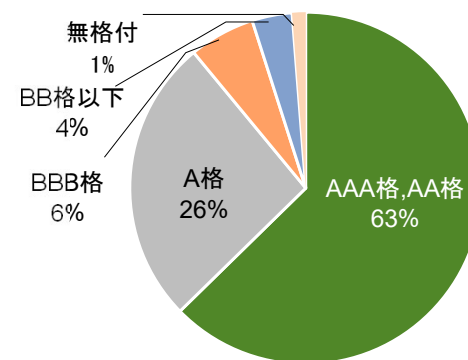
市場運用資産の状況（2021年3月末）



市場運用資産（満期がないものを除く） 金利更改満期別内訳



市場運用部門総資産 格付別内訳

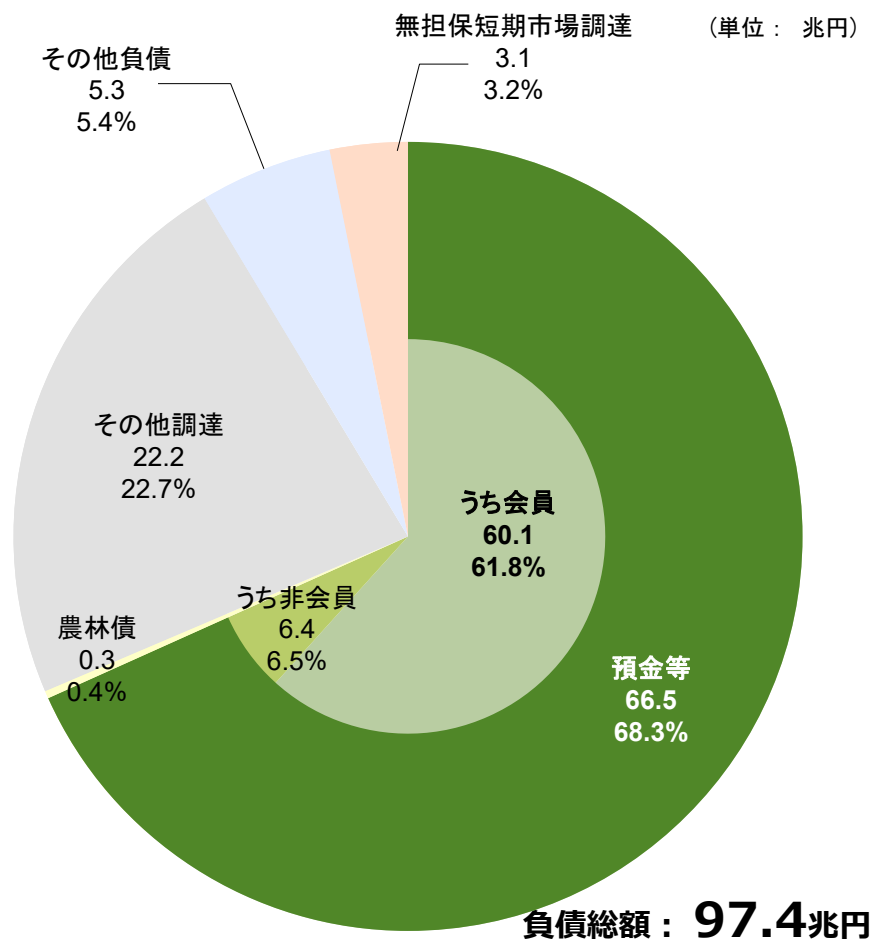


※変動金利も含む

資金調達状況（単体ベース）

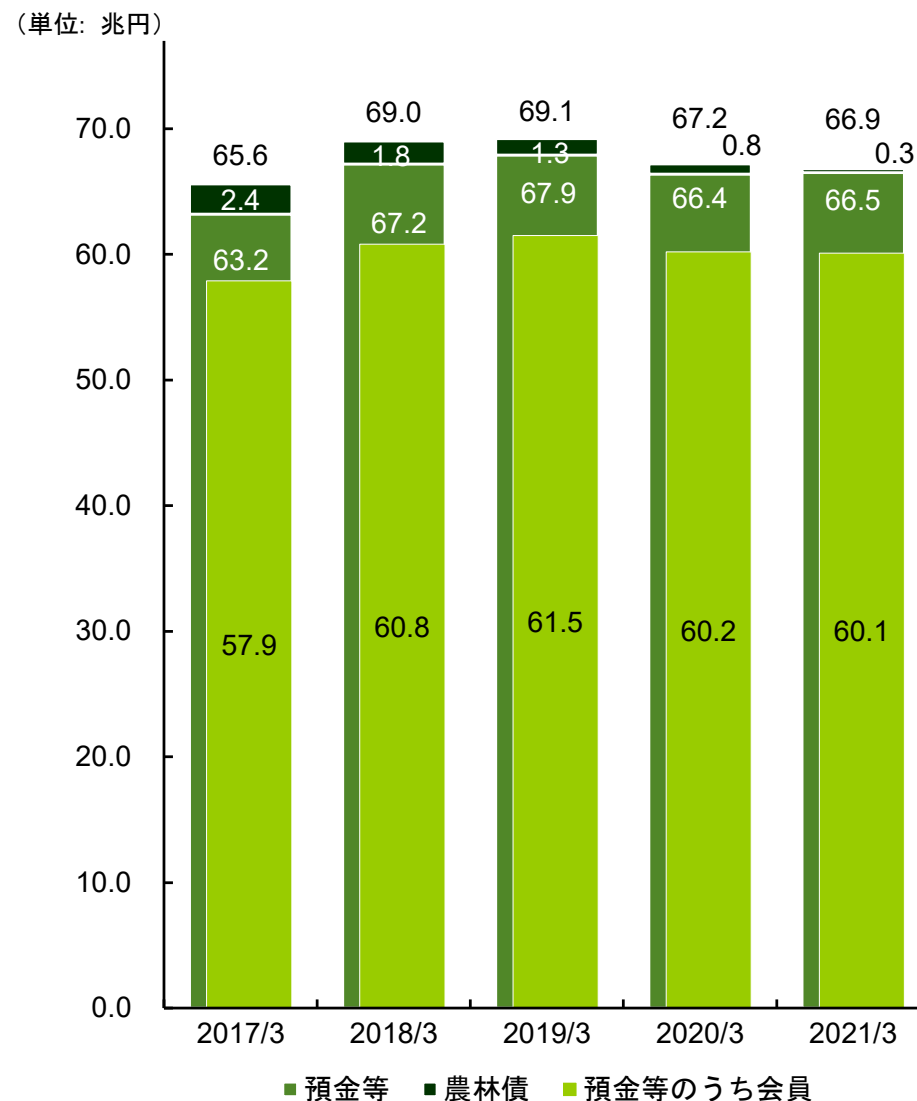
■ 会員からの預金を中心とする安定的な資金調達を実施

負債の種類別内訳



注：預金等は会計上の預金と受託金（会員からの短期資金受入が大半）。その他調達は有担保調達である売現先勘定・債券貸借取引受入担保金、および借入金（有担保、劣後ローン）等。その他負債は支払承諾、引当金等。無担保短期市場調達は特定取引負債、譲渡性預金および無担保コールマネー等

預金等・農林債残高の推移

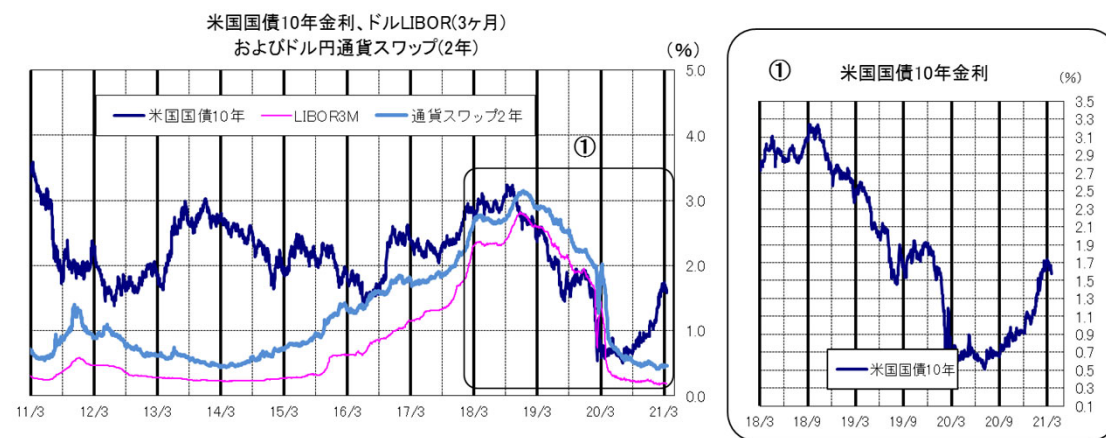


運用・調達利回り（単体ベース）

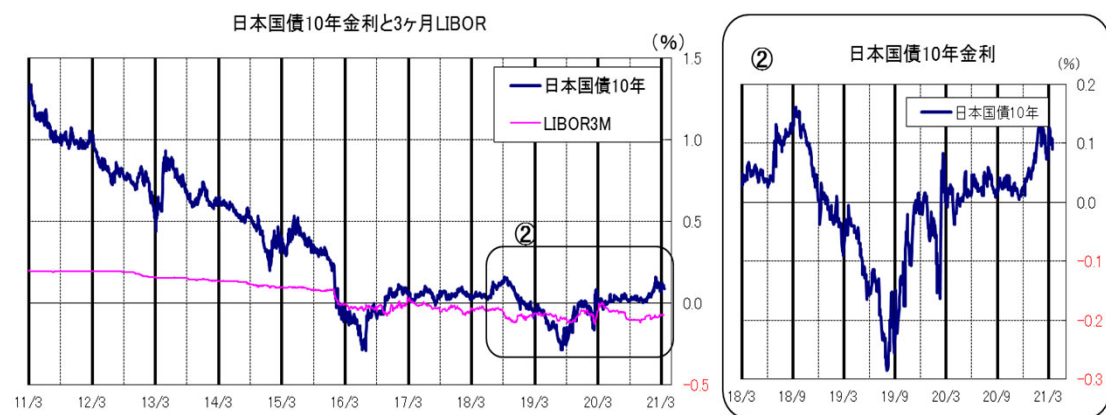
■ 金利低下により、外貨調達利回りが低下し、外貨調達費用は減少

	平残（単位：兆円）		収支（単位：億円）		利回り	
	2020年度	前期比	2020年度	前期比	2020年度	前期比
【運用の状況】						
1 貸出金	20.9	▲ 1.8	835	▲ 323	0.40%	▲ 0.21%
2 有価証券等	55.3	▲ 0.7	10,512	▲ 2,257	1.90%	▲ 0.38%
3 円貨建有価証券等 （収支は売却損益含む）	17.4	0.8	1,750	1,931	1.00%	1.11%
4 外貨建有価証券等 （収支は売却損益含む）	37.9	▲ 1.5	8,762	▲ 4,189	2.31%	▲ 0.97%
5 短期運用資産等	1.4	0.0	4	▲ 105	0.03%	▲ 0.77%
【調達の状況】						
6 信連等調達	59.9	▲ 0.8	3,134	▲ 230	0.52%	▲ 0.03%
7 農林債券	0.5	▲ 0.4	6	▲ 11	0.12%	▲ 0.06%
8 市場調達	32.5	2.2	790	▲ 2,959	0.24%	▲ 1.00%
9 円貨市場調達	3.7	▲ 0.3	▲ 9	▲ 0	▲ 0.02%	▲ 0.00%
10 外貨市場調達	25.1	2.3	434	▲ 2,956	0.17%	▲ 1.32%
（参考）						
11 外貨調達費用 （通貨スワップ等含む）	43.3	1.0	1,651	▲ 5,849	0.38%	▲ 1.39%

（参考）米ドル金利の推移



（参考）円金利の推移



自己資本比率等

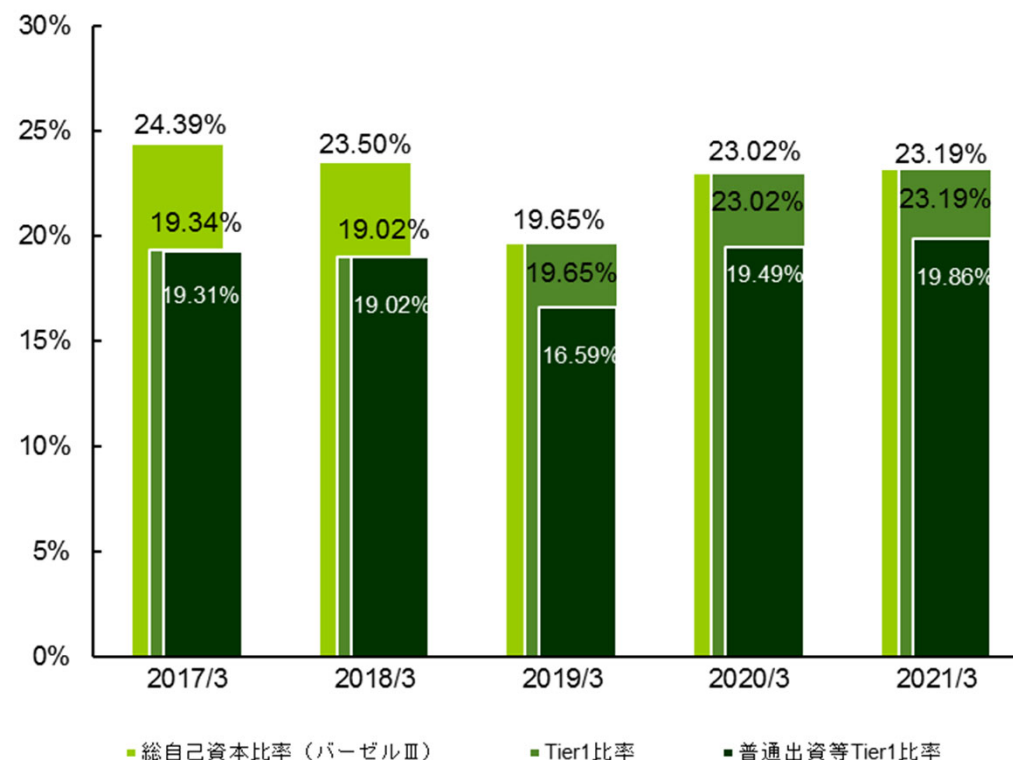
■ 自己資本比率はTier1の増加等を主因として上昇、引き続き高水準を維持

【連結】

(単位：億円)

	2020年3月末	2021年3月末	増減
1 Tier1	85,990	91,894	5,903
2 普通出資等Tier1(CET1)	72,807	78,724	5,917
3 うち資本金及び資本剰余金	40,152	40,152	-
4 うち利益剰余金等	19,383	20,413	1,030
5 うちその他有価証券評価差額金	17,016	19,485	2,469
6 その他Tier1	13,183	13,169	▲14
7 Tier2	12	11	▲0
8 うち劣後債務	9	9	-
9 総自己資本	86,003	91,905	5,902
10 リスク・アセット	373,449	396,224	22,774
11 普通出資等Tier1比率(CET1比率)	19.49%	19.86%	0.37%
12 Tier1比率	23.02%	23.19%	0.17%
13 総自己資本比率	23.02%	23.19%	0.17%

連結自己資本比率の推移



連結レバレッジ比率

	2020年3月末	2021年3月末
14 連結レバレッジ比率	8.04%	10.19% (注1)

注1：2020年6月30日付 金融庁・農林水産省告示改正に伴い、総エクスポージャーの額より日本銀行に対する預け金を除外して算出

連結流動性カバレッジ比率

	2020年度	1Q	2Q	3Q	4Q
15 連結流動性カバレッジ比率(注2)	325%	347%	323%	363%	

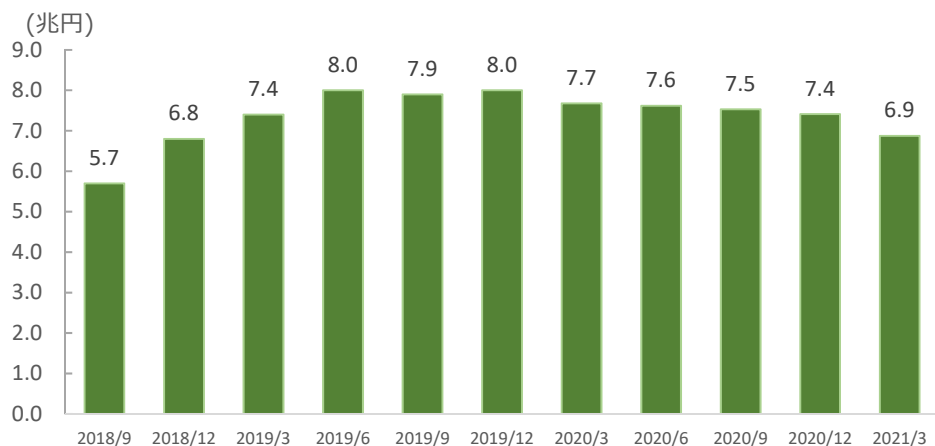
注2：項目15については対象四半期の平均値

Appendix

市場運用資産(CLO)について

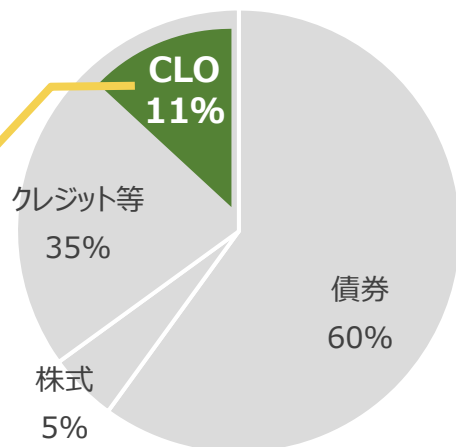
- 詳細な分析や適切なリスク管理態勢の下、リスク・リターンを勘案しながら慎重な投資を実施

投資残高の推移



市場運用資産に占める割合・資産内容

- 市場運用資産の11%
- 全てAAA格
- 全て満期保有目的



※四捨五入のため、各数値の合計が100%とならない場合があります

投資にあたっての分析・リスク管理

投資対象	<ul style="list-style-type: none"> • AAA格に限定
裏付資産	<ul style="list-style-type: none"> • 組入可能資産についての厳格な基準設定 • 裏付資産内の個別銘柄・業種の分析
ストラクチャー	<ul style="list-style-type: none"> • 信用補完水準等についての独自ガイドライン • 当金庫独自の厳格なストレステスト • ミドル部門による全件審査
運用マネージャーの選定	<ul style="list-style-type: none"> • 投資前のデューデリジェンスを通じた、運用能力・投資スタンスの確認
投資後のモニタリング	<ul style="list-style-type: none"> • マネージャーとの綿密なコミュニケーション • 投資ガイドライン遵守状況、運用方針、裏付資産の質等の確認

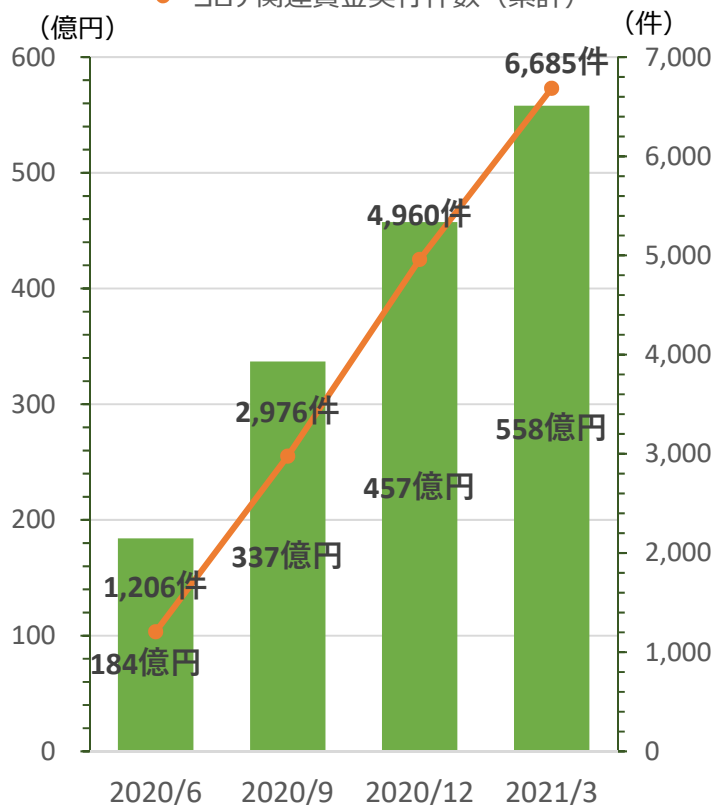
新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う対応

- 業種・規模問わず幅広い取引先にて資金需要が発生。コロナ対策資金を創設し、適切な資金対応を継続

コロナ関連融資の対応状況

JAバンク

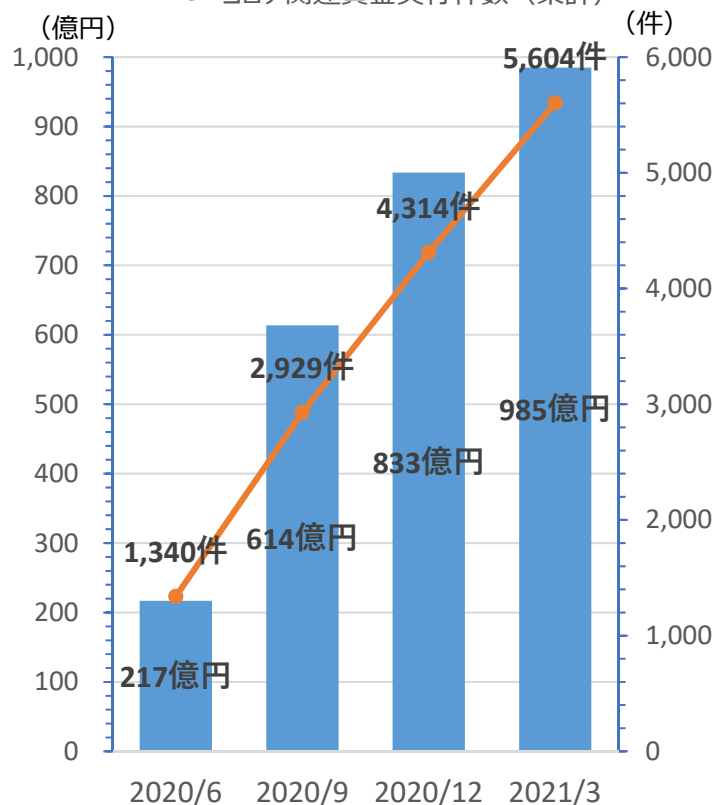
■ コロナ関連資金実行額（累計）
● コロナ関連資金実行件数（累計）



※ JAバンクはJA・信農連・金庫のコロナ関連資金、公庫受託資金の合算

JFマリンバンク

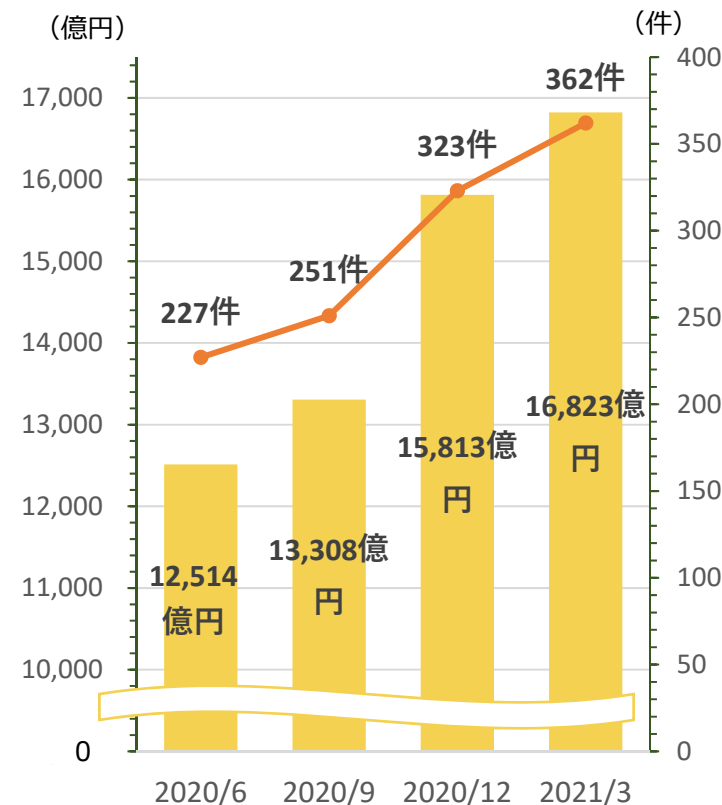
■ コロナ関連資金実行額（累計）
● コロナ関連資金実行件数（累計）



※ JFマリンバンクはJF・信漁連・金庫のコロナ関連資金、公庫受託資金の合算

農林中央金庫（一般事業法人向け）

■ コロナ関連資金実行額（累計）
● コロナ関連資金実行件数（累計）

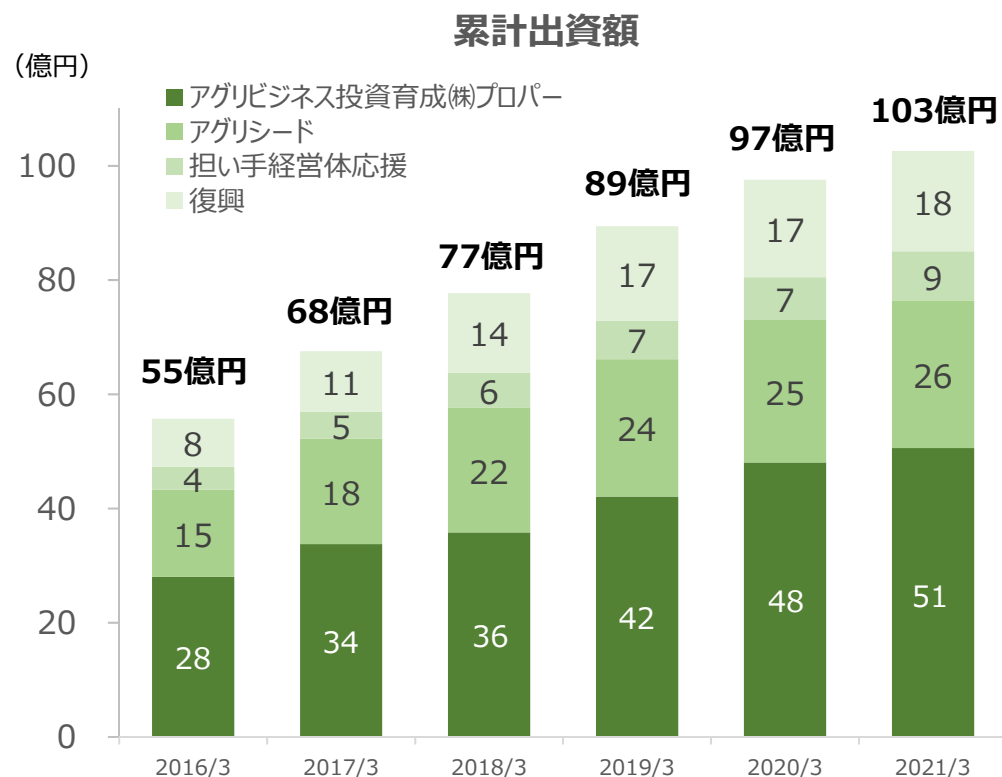
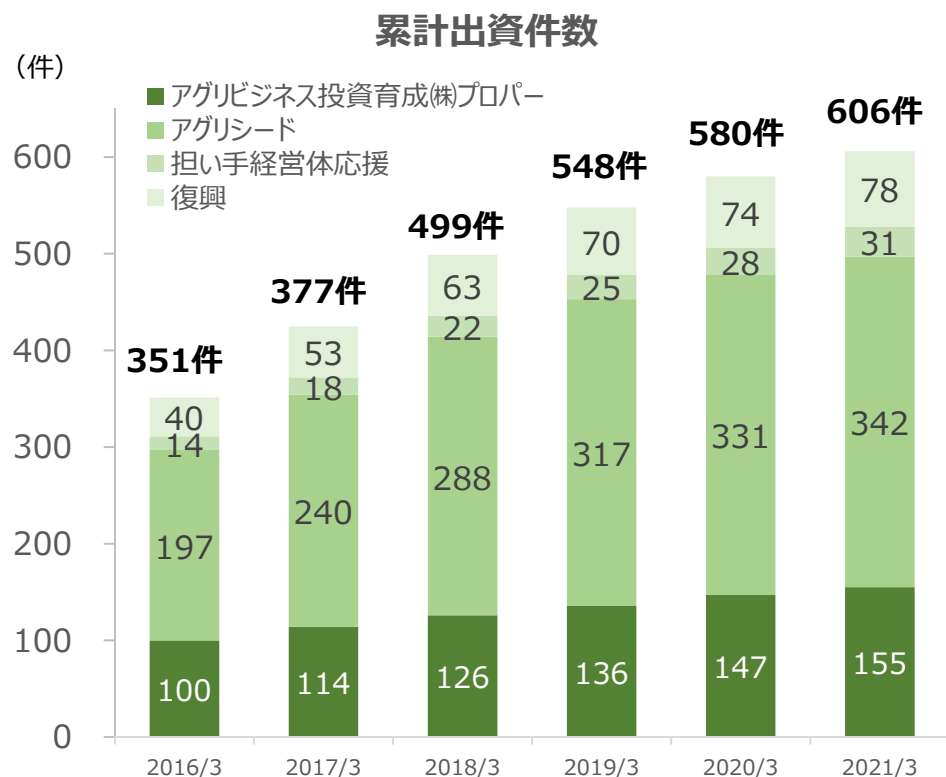


※ 農林中央金庫のコロナ関連の事業法人向け貸付
※部・支店からの報告ベース

農業法人等へのリスクマネーの供給

- ファンドを通じた農業法人等への出資は累計606件・103億円。担い手の成長ステージに応じた資金ニーズに対応

アグリビジネス投資育成(株)を通じた農業法人等への出資実績



アグリビジネス投資育成(株)

農業法人投資育成制度にかかる業務を行うため、JAグループと日本政策金融公庫の出資により設立された法人

アグリシードファンド

技術力はあるが資本不足の農業法人等に対する、財務安定化のための出資(10百万円以下)を目的とするファンド

担い手経営体応援ファンド

農業法人等の規模拡大に伴う設備投資等のための大型出資(10百万円以上)を目的とするファンド

東北農林水産業応援ファンド (復興ファンド)

被災した農林水産業法人等への資本供与を通じた支援を目的とするファンド

サステナブル経営の取組み（2020年度実績）

- 「サステナブル中期目標」の達成に向け、2020年度は農林水産業を取り巻くサステナビリティの課題を踏まえた5つの重点取組事項を設定。
- これに基づく具体的な取組みを経営計画上に定め、実践。他方、コロナ禍も踏まえた課題認識の変化があり、一層の取組み強化が必要に。

目指す姿

気候変動や人権配慮等、環境・社会課題の解決に事業活動を通じて貢献し、
農林中央金庫の事業基盤である、農林水産業や地域社会の持続可能性(サステナビリティ)を確保する

貢献する
 主なSDGs :

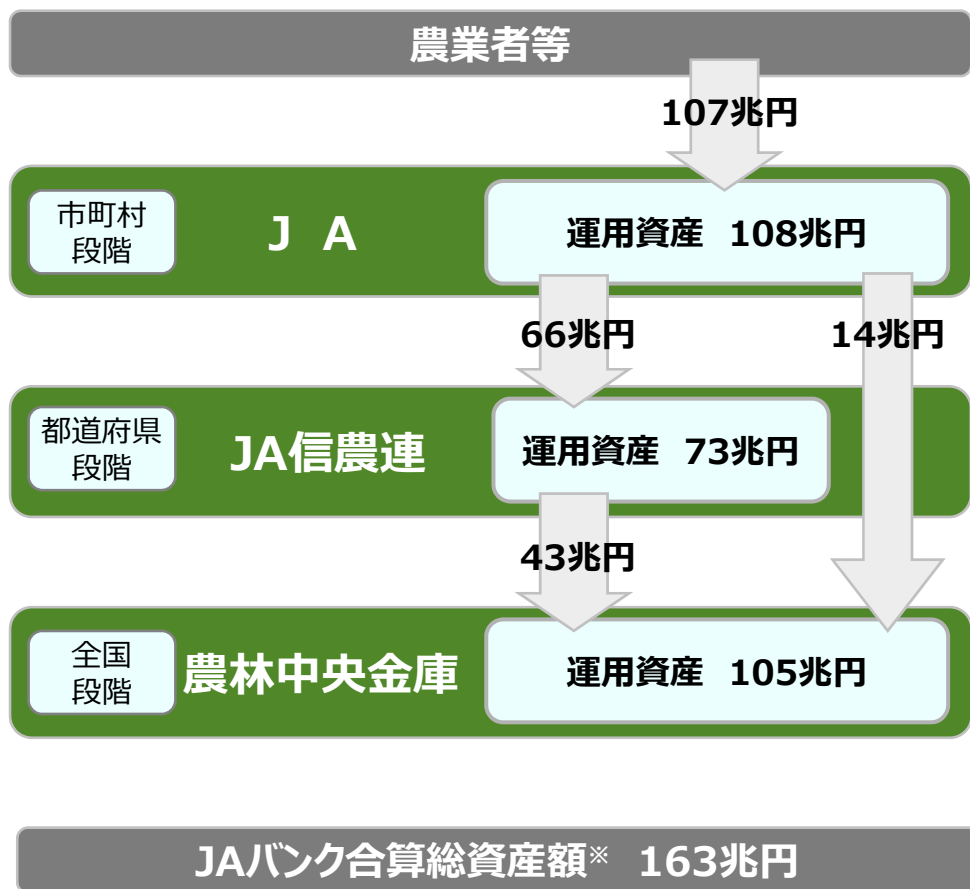


コロナ禍も踏まえた課題認識の変化：
 環境・社会、農林水産業のレジリエンスの重要性が浮き彫りに

2020年度重点取組事項	主な取組実績
1 農林水産業のサステナビリティ確保	<ul style="list-style-type: none"> ■ ESGテーマ型投融資 <ul style="list-style-type: none"> ・新規実行額6,091億円（2021/3末時点）※2020年度目標2,500億円 ・累計残高約2.4兆円（2021/3末時点）
2 循環型社会の実現に向けた貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ サステナビリティ・リンク・ローン新設 （お客さまのESG目標(SPTs)の達成状況に応じて貸付条件が変動）
3 地域コミュニティの発展への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ■ 投融資セクター方針拡充 <ul style="list-style-type: none"> ・禁止セクター：クラスター弾製造 ・制限セクター：石炭火力発電(強化)、パーム油生産(新設)、森林伐採(新設)
4 環境・社会に配慮した投融資 (サステナブル・ファイナンス)	<ul style="list-style-type: none"> ■ TCFDに沿った対応進展 <ul style="list-style-type: none"> ・移行リスクシナリオ分析実施
5 サステナブル経営の実践に向けた組織基盤の構築	

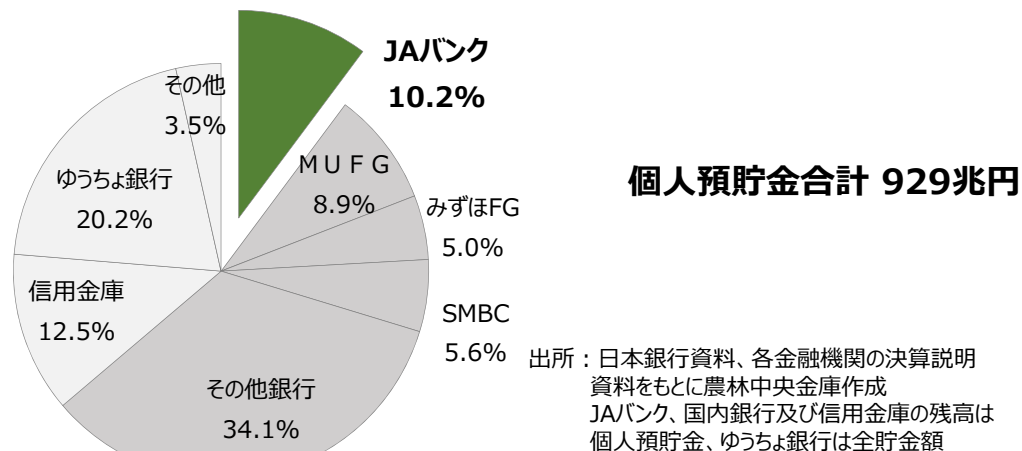
(参考) JAバンクの事業基盤

JAバンクにおける預貯金の流れ (2021年3月末)



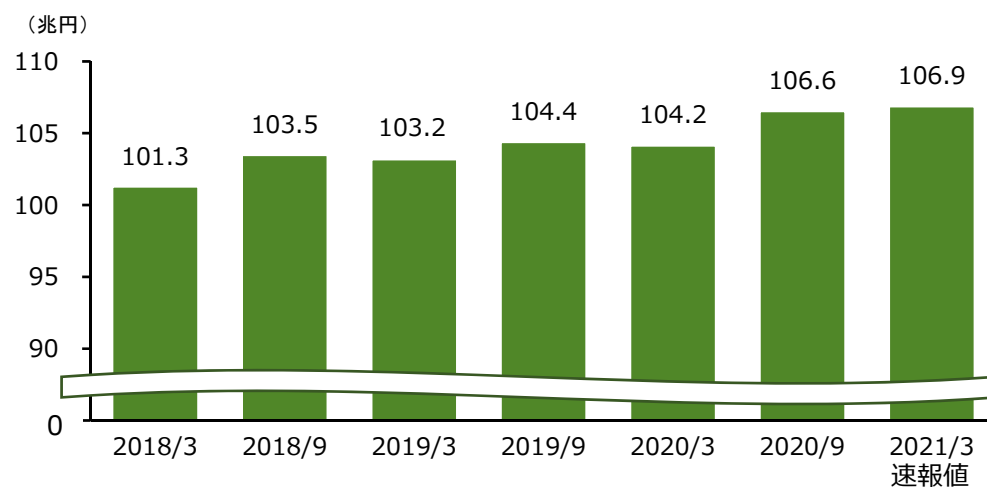
※ 合算総資産額 : 運用資産 - 預け金

国内個人預貯金残高シェア (2020年9月末)



※四捨五入のため、各数値の合計が100%とならない場合があります

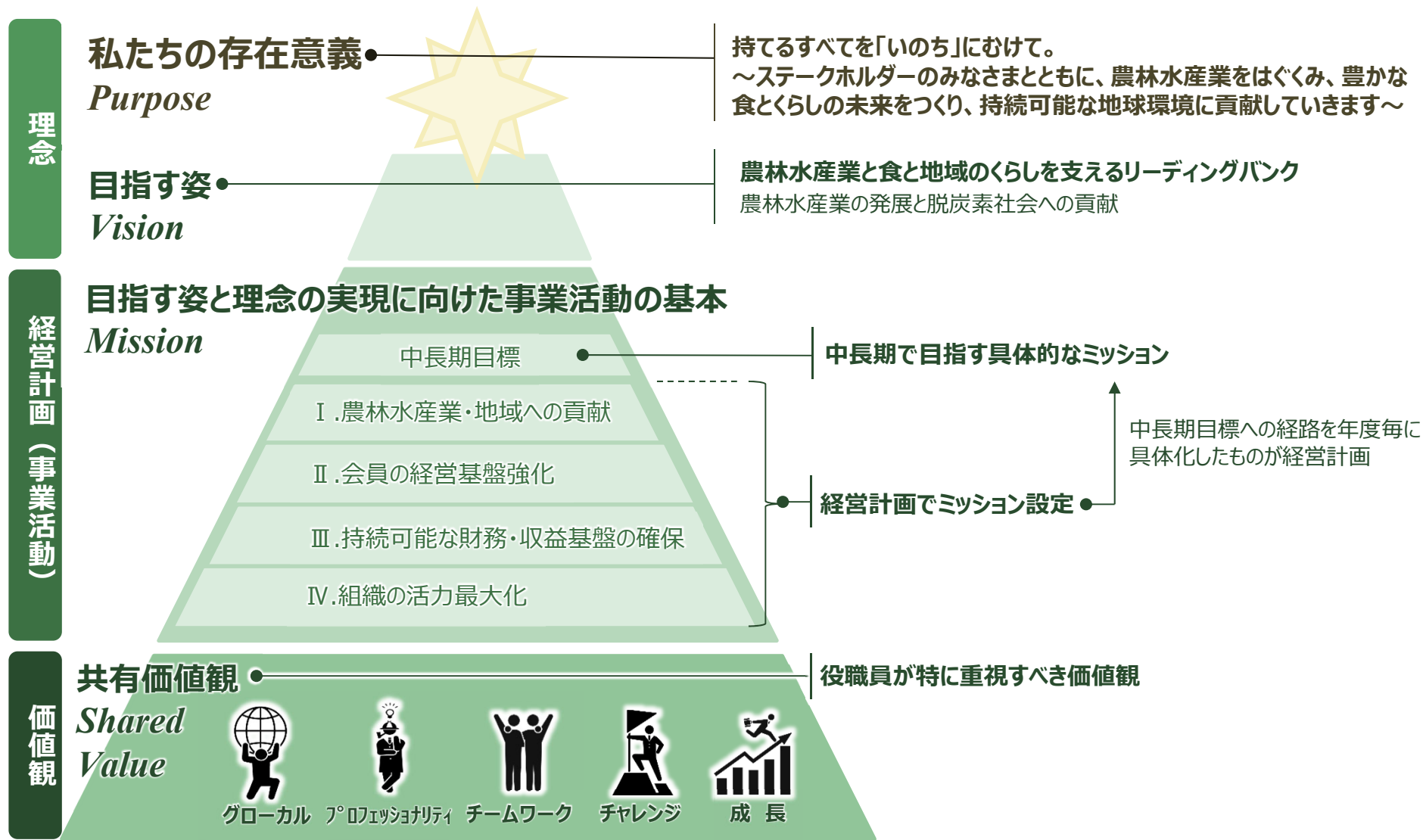
JA貯金残高の推移



農林中央金庫の目指す姿

農林中央金庫の目指す姿

■ 農林中央金庫の存在意義、中長期目標を含む経営システムの全体像を今年度の経営計画の中で再定義。



ステークホルダー：JA・JF・Jforestなどの会員 / 会員の組合員（農林水産業に従事するみなさま） / 農林水産関連企業をはじめとする預貯金や貸出のお取引先
地域社会のみなさま / 金融機関や市場参加者、業務委託先など業務全般にわたるビジネスパートナー / 行政 / 職員

中長期目標

- 農林中金自身と投融資先のGHG排出量削減、サステナブル・ファイナンス新規実行額、女性管理者比率について、経営計画における中長期目標を設定。
- CO2森林吸収、農林水産業者所得増加についても、会員と連携して取り組んでまいります。

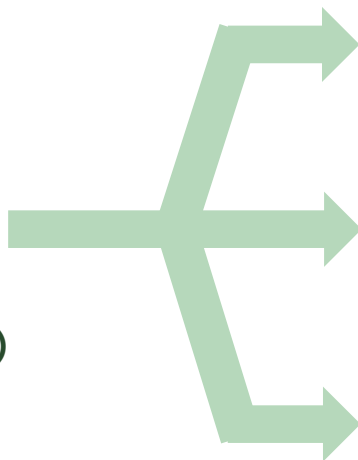
農林中央金庫の中長期目標



農林中央金庫投融資先等の
GHG排出量削減
2030年までに▲50%（2013年対比）



農林水産業者所得の増加



農林中央金庫投融資先のGHG排出量削減
2030年までに▲50%（2013年対比）



会員と一体となった森林由来のCO2吸収



農林中央金庫拠点等のCO2排出量削減
2030年までに▲50%（2013年対比）



サステナブル・ファイナンス
2030年までに新規実行額10兆円



女性管理者比率
（2030年までに13%、2040年までに30%）
※2020年3月末時点の実績 6.2%

ご利用の皆様へ

- 本プレゼンテーション資料に記載されている情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等についての検証を行っておらず、また、これを保証するものではありません。弊金庫は、本プレゼンテーション資料に記載されている情報の利用から生じる損害が直接的、また、間接的であるかに関わらず、何ら責任を負いません。
- 本プレゼンテーション資料には、弊金庫に関連する見通し、計画、目標などの将来に関する記述がなされています。これらの記述は、当金庫が現在入手している情報に基づき、本プレゼンテーション資料の作成時点における予測等を基礎としてなされたものです。また、これらの記述は、一定の前提（仮定）の下になされています。これらの記述または前提（仮定）が、客観的には不正確であったり、または将来実現しない可能性があります。
- 本プレゼンテーション資料は、有価証券の販売のための勧誘を構成するものではありません。